小規模高齢化集落における高齢者就労事業の検討：岩手県花巻市A集落を事例として

宮城好郎・狩野　徹・吉田清子・館山壮一[1)]・白石雅紀[2)]

1. 研究の目的

東北の地方部では少子高齢化により高齢者が主体となった農村集落が増えてきている。結果、医療費の増加や若手労働力の確保などが課題となってきている。また、地域コミュニティの形態も変化し、住民の交流時間も減少傾向にあり、高齢者の見守りも地域の課題となっている。そこで本研究では、小規模高齢化集落における高齢者就労事業の検討を行うことを目的とする。具体的には岩手県花巻市A集落を事例として、地域の生きがいづくりを目的とした時間を通貨とする互助コミュニティ形成の仕組み、ワークシェアリングの導入を目指す基礎検討を行う。本研究ではA集落におけるワークシェアリング導入の基礎検討、先行研究、先進事例等よりワークシェアリング導入のためのフレームの考案を通して、小規模高齢化集落における高齢者就労事業の検討を行う。

2. 研究方法

①先行研究のレビュー。②集落自治会、地域住民等に対する情報収集、ヒアリング調査の実施。③コミュニティビジネスの先進地について研修会･現地調査の実施。以上、①～③を踏まえて、小規模高齢化集落における高齢者就労事業の活性化の手段としてワークシェアリング導入ためのフレームについて提案を行う。

3. 研究の概要

（1）A集落における調査・基礎検討

フィールドとする岩手県花巻市A集落は、岩手県花巻市の東側に位置する世帯数67戸の小規模行政区にある中山間地の小規模高齢化集落であり、人口減少と高齢化が急速に進んでいる地域である。少子高齢化や一人暮らし世帯の増加に加え、農産物価格の低迷、耕作放棄地の発生、農業後継者問題等、農村固有の課題を抱えながら地域の活力が失われているのが現状である。そこで本研究では、A集落のふるさと地域協議会との連携により、地域資源の人材（主に高齢者）活用により、地域住民の「生きがい」づくりに貢献するような高齢者の新たな仕事の枠組み=フレームづくりをとりまとめた。

A集落を対象に地域のいきがいづくりを目的とした時間を通貨とする互助コミュニティ形成の仕組み、「ワークシェアリング」の導入を目指すための枠組みの提案を株式会社クリアフィックス瀧澤寛之氏との連携のもと実施した。そのため、紙媒体を用いた運用試験の提案をはじめ、段階的にコンピューター・システムを利用した運用に移行できるか聞き取り調査を行った。

（2）先進事例の調査

小規模高齢化集落における高齢者就労事業の先進事例として徳島県上勝町で行われている葉っぱビジネス「いろどり」の調査を行った。上勝町での調査を通じて高齢者就労事業においては、1．地域の短所を長所へと活かす発想の転換、2．すきま産業への取り組み、などが今後の参考となった。また、物語性を持つことの重要性も調査を通じて再認識できた。上勝町の葉っぱビジネスの取り組みは小規模高齢化集落におけるサクセスストーリーとして広く海外にまで発信されている。物語性を持つことにより、知名度が高まり、結果として若者を含めた多くの人が上勝町を訪れるようになったのである。A集落の高齢者就労事業・ワークシェアリングも物語として積極的に外部に発信できれば、より地域の活性化につながる可能性がある。上勝町の事例からも高齢者の就労事業は地域を維持する原動力となりうることが改めて明らかになった。

4. 結果

本研究ではA集落をモデルとしたワークシェアリングの導入についての検討、手法の提案、聞き取り調査を行った。結果としてA集落ではワークシェアリングの導入には、1．時間総量の管理、2．参加者の管理といった課題があるものの、前向きな検討が可能であるという結果を得ることが出来た。これらの調査結果と、先行事例における知見などを踏まえて、A集落ふるさと地域協議会の事務局に対して「ワークシェアリング」の導入のためのフレームについてプレゼンテーションを通じて提案を行った。

5. 終わりに

今後は上記の結果を検討し、継続的な交流を通じてさらなる実態調査を行い、導入するワークシェアリングの形について検討を進める予定である。ワークシェアリングの枠組みが整ったらA集落で実証し効果を検討したい。また、八幡平市で行われている日本版CCRCコンセプトによって作られたアクティブシニア向けの高齢者住宅に先行して導入することで、効率的な実証実験と意見徴収が可能になるものと考えられる。A集落での取り組みと並行して今後とも検討をすすめていきたい。

[1)] 岩手県立大学院社会福祉研究科後期課程　[2)] 修紅短期大学